第三百九十條　檢事公訴手續ニ於テ檢事局ニ屬スル上訴ハ被害公訴人ニ屬ス但シ第三百十三條ノ留保ヲ存ス第三百六十二條ノ場合ニ於ケル再審ノ申立ニ付亦同シ第三百一條ノ規定ハ之ヲ被害公訴人ノ上訴ニ適用ス

上告申立及ヒ確定判決ヲ以テ終結シタル手續ニ對スル再審ノ申立ハ被害公訴人、辯護士ノ署名シタル書面ニ依テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第三百二十條第三百二十一條第三百四十七條ニ於テ命シタル書類ノ提出及ヒ送致ハ檢事公訴ノ裁判手續ニ於ケルト同一ノ手續ニ於テ檢事ニ依リ行ハルルモノトス不服申立人ノ相手ニ爲ス控訴狀及ヒ上告狀ノ送達ハ裁判所ノ書記之ヲ爲スモノトス

第三百九十一條　被害公訴ハ第一審裁判所判決言渡迄ハ之ヲ取下ルコトヲ得及ヒ許サレタル控訴ヲ提起シタルトキニ限リ控訴裁判所ノ判決言渡ニ至ル迄之ヲ取下ルコトヲ得

第一審裁判所ノ裁判手續及ヒ被告控訴ヲ提起シタルトキニ限リ控訴裁判ノ裁判手續ニ於テ被害公訴人公判ニ出廷セス又ハ辯護士ヲ以テ代理出廷セシメサルトキ又ハ裁判所ニ於テ本人ノ出廷ヲ命シタルモ公判期日又ハ其ノ他ノ期日ニ其ノ不參スルトキ又ハ公判ヲ中止スルコトアル可キ旨ヲ以テ定メタル期間ヲ懈怠シタルトキハ取下シタルモノト看做ス

被害公訴人控訴ヲ提起シタルトキニ限リ控訴ハ前項ニ記載シタル懈怠ノ場合ニ於テ直ニ之ヲ棄却ス可キ

モノトス但シ第三百一條ノ規定ハ妨ケラルルコトナシ

被害公訴人ハ懈怠後一週間内ニ第四十四條第四十五條ニ記載シタル要件ニ從ヒ原狀回復ヲ申立ツルコトヲ得

第三百九十二條　取下タル被害公訴ハ再ヒ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第三百九十三條　被害公訴人死去スルトキハ裁判手續ヲ停止スルモノトス

但シ被告ニ於テ眞實ナラサルコトヲ知リツツ他人ニ關シ其ノ人ノ蔑視ヲ蒙リ又ハ輿論ニ於テ榮譽ヲ損フヘキ不實ノ事實ヲ主張又ハ宣傳シタルヲ理由トシテ被害公訴提起セラレタルトキハ公訴人死亡後父母子女又ハ子女ノ配偶者ハ其ノ訴訟ヲ繼續スルコトヲ得

其ノ繼續ハ權利者被告公訴人ノ死去ヨリ起算シ二月以内ニ裁判所ニ申立ツルニ非サレハ其ノ權ヲ失フモノトス

第三百九十四條　被害公訴ノ取下及ヒ被害公訴人ノ死去並ニ被害公訴ノ繼續ハ被疑者ニ之ヲ通知スルモノトス

第二章　副訴（公訴ニ對スル被害者ノ參加）

第三百九十五條　第三百七十四條ノ規定ニ從ヒ被害公訴人タルノ權利ヲ有スル者ハ訴訟中何時タリトモ提起セラレタル公訴ニ副訴人トシテ參加スルコトヲ得其ノ參加ハ判決ヲ爲シタル後ト雖モ上訴ノ爲メ之ニ參加スルコトヲ得ルモノトス

裁判所ノ裁判ヲ求ムル申立ヲ爲シテ（第百七十二條）公訴ノ提起ヲ爲サシメタル者ハ其ノ生命健康自由戶籍又ハ財產權ニ對シ犯罪行爲ヲ受ケタルトキニ限リ同一ノ權ヲ有スルモノトス

第三百九十六條　參加申立ハ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ副訴人參加ノ權アリヤ否ニ付キ檢事局ノ意見ヲ聽キテ之ヲ裁判スヘキモノトス

副訴人ハ保證ヲ立ツルノ義務ナキモノトス

第三百九十七條　副訴人ハ參加ヲ爲シタル後被害公訴人ト同一ノ權ヲ有ス

第三百九十八條　訴訟手續ノ繼續ハ參加ニ依リテ停止セラレサルモノトス

既ニ期日ヲ定メタル公判及ヒ其他ノ裁判期日ハ日限ノ迫リタル爲メ副訴人ヲ喚出コト能ハス又ハ之ニ通知スルコト能ハサルトキト雖モ其ノ定メタル日限ニ從フモノトス

第三百九十九條　參加前ニ爲シ且ツ檢事局ニ告知シタル裁判ハ之ヲ副訴人ニ告知スルコトヲ要セス

檢事局ニ對シ此ノ裁判ノ不服申立ノ期間滿了シタルトキハ副訴人亦其ノ不服申立ヲ爲スコトヲ得ス

第四百條　公判ニ於テ副訴人出廷セス又其ノ辯護士出廷セサルトキ判決書ハ副訴人ニ送達スルモノトス

第四百一條　副訴人ハ檢事局ヨリ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

副訴人ノミカ爲シタル上訴ニ依リ其ノ不服ヲ受ケタル裁判カ廢棄セラレタルトキハ檢事局ハ事件ノ訴訟ヲ擔當スルモノトス

第四百二條　參加申立ハ取消竝ニ副訴人ノ死去ニ依リ其ノ效力ヲ奪ハルルコトナシ

第四百三條　第三百九十五條乃至第四百二條ノ規定ニ從ヒ副訴人トシテ訴訟ニ參加スルノ權ハ賠償金ノ言渡ヲ請求スルノ權アル者ニ亦屬ス

公訴提起ニヨリ裁判所ニ繫屬シタル手續ニ於テ賠償金ノ言渡ヲ申立テムトスル者ハ其ノ爲メ副訴人トナリテ公訴ニ參加スヘキモノトス

第四百四條　賠償金言渡ノ申立ハ第一審判決告知ニ至ル迄之ヲ爲スコトヲ得

其ノ申立ハ判決告知ニ至ル迄ハ其ノ取下ヲ爲スコトヲ得取下タル申立ハ再ヒ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

被告無罪ノ言渡ヲ受ケ又ハ裁判手續ヲ廢止シ又ハ事件ヲ判決ナクシテ完結シタルトキハ賠償金言渡ノ申立亦別段ノ裁判ナクシテ完結シタルモノト看做ス

賠償ノ請求ハ被害者ノ相續人之ヲ爲シ又ハ之ヲ繼續スルコトヲ得ス

第四百五條　副訴人ハ賠償金トシテ請求スル額ヲ申出ヘキモノトス

其ノ申出ヨリ高額ノ賠償金ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百六條　第四百四條第四百五條ノ規定ハ賠償金請求者カ被害公訴ヲ提起スル場合ニモ亦之ヲ準用ス

第六編　特種ノ裁判手續

第一章　區裁判所判事ノ處刑命令ニ關スル裁判手續

第四百七條　違警罪及ヒ輕罪ニ付テハ檢事局書面上ノ請求アリタルトキ區裁判所判事豫メ審問ヲ爲サスシテ書面ニ依ル處刑命令ヲ以テ刑ヲ定ムルコトヲ得

但シ處刑命令ヲ以テハ罰金刑又ハ三月以下ノ自由刑並ニ沒收又ハ裁判ノ告知ニ限リ之ヲ定ムルコトヲ得

處刑命令ヲ以テ被疑者ヲ聯邦警察署ニ委付スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

檢事局ハ區裁判所判事カ事件ヲ公判ニ付スル場合又ハ被害者カ異議ヲ申立ツル場合ノ爲メ處刑命令ヲ發スル申立ト同時ニ裁判所構成法第二十五條第一項第二號cニ掲クル申立ヲ爲スコトヲ得

第四百八條　申立ハ刑ヲ定メテ之ヲ爲スヘシ區裁判所判事ハ處刑命令ノ言渡ニ付キ疑ノ存セサルトキニ限リ其ノ申立ニ從フヘキモノトス

區裁判所判事公判ヲ經スシテ刑ヲ言渡スニ付キ疑ノ存スルトキハ事件ヲ公判ニ付スヘキモノトス區裁判所判事申立テラレタル以外ノ刑ヲ定メント欲スル場合ニ於テ檢事局其ノ申立ヲ固守スルトキ亦同シ

第四百九條　處刑命令ニハ刑ヲ定ムル外罰セラルヘキ行爲適用シタル刑法法條及ヒ證據方法ヲ明示シ且ツ被疑者カ其ノ送達後一週間以內ニ區裁判所判事ニ對シ書面ヲ以テ又ハ裁判所書記ヲシテ調書ニ作成セシメテ異議ヲ申立テサルトキハ命令ヲ執行スヘキ旨ノ通知ヲ掲クヘシ

期間內ニ於テ異議申立權ヲ拋棄スルコトヲ得

第四百十條　期間內ニ於テ異議ノ申立ナキトキ處刑命令ハ確定判決ノ效力ヲ生スルモノトス

第四百十一條　期間內ニ異議ノ申立アリタルトキハ公判ヲ開始ス但シ其ノ開始マテ檢事局公訴ヲ取消シタルトキ又ハ異議ノ取下アリタルトキハコノ限リニアラス

被告ハ公判ニ於テハ書面上ノ委任ヲ有スル辯護人ヲシテ代理セシムルコトヲ得

判決ヲ爲スニハ處刑命令ニ掲クル言渡ニ拘束セラレサルモノトス

第四百十二條　被告宥恕セラルヘキ辯疏ヲ爲サスシテ公判ニ出頭セス又ハ辯護人ヲシテ代理セシメサルトキハ證據調ヲ爲サスシテ判決ヲ以テ異議ヲ棄却スヘキモノトス

被告カ異議申立期間ノ經過ニ對シ原狀回復ヲ申立テ其ノ申立許サレタルトキハ被告ハ判決ニ對シ原狀回復ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二章　警察官署ノ爲ス處刑處分手續

第四百十三條　聯邦法律ノ規定ニ從ヒ警察官署其處分ヲ以テ刑法上ノ刑ヲ定ムルノ權アル場合ニ於テ其ノ權ハ違警罪ノ外ニ及フコトヲ得ス警察官署ハ十四日以內ノ勾留、罰金、罰金ヲ納メサル場合之ニ換フル勾留並ニ沒收以外ノ刑ヲ定ムルコトヲ得ス

處刑處分ニハ刑ヲ定ムルノ外罰セラルヘキ行爲ト適用シタル刑法法條及ヒ證據方法ヲ明示シ且被告カ處刑處分ニ對シ法律上許サレタル抗告ヲ上級警察官署ニ爲サヽルトキニ限リ告知後一週間內ニ處分ヲ爲シタル警察官署又ハ管轄區域裁判所ニ對シ裁判所裁判ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得ル旨ノ告知ヲ揭クヘキモノトス

處刑處分ハ時效ノ中斷ニ關シテハ判事ノ處分ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百十四條　裁判所裁判ノ申立ハ警察官署ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ區裁判所ニ書面ヲ以テ又ハ裁判所書記ヲシテ調書ニ作成セシメテ之ヲ爲スコトヲ得

警察官署ハ處分ヲ取消サヽルトキハ記錄ヲ管轄檢事局ニ送附シ檢事局ハ之ヲ區裁判所判事ニ提出スヘキモノトス

第四百十五條　申立期間ノ懈怠ニ對シテハ第四十四條及ヒ第四十五條ニ揭クル要件ニ從ヒ原狀囘復ヲ許スヘキモノトス其ノ申立ハ第四百十四條指定ノ官署ニ之ヲ爲スヘシ

其ノ申立ニ付テハ區裁判所判事之ヲ裁判ス

此ノ場合第四十六條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス

第四百十六條　裁判所裁判ノ申立カ期間內ニ於テ爲サレタルトキハ區裁判所判事ハ起訴狀ノ提出ニヨラス又ハ公判手續ノ開始ニ付テノ裁判ヲ經スシテ公判ヲ開始スルモノトス

其ノ申立ハ公判開始ニ至ル迄之ヲ取リ下クルコトヲ得

第四百十七條　區裁判所判事ノ裁判手續ハ檢事カ公訴ヲ提起シ事件カ本審ニ移リタル場合ト同一ナリトス

被告ハ書面上ノ委任ヲ有スル辯護人ヲシテ代理セシムルコトヲ得

裁判所ハ判決ヲ爲スニ當リ警察官署ノ言渡ニ拘束セラルヽモノトス

第四百十八條　公判ノ結果ニ依リ被告ノ行爲ニ付キ警察官署處刑處分言渡ノ權ナキコト判然スルトキハ裁判ハ事件ニ付キ裁判ヲ爲サスシテ判決ヲ以テ其ノ處分ヲ廢棄スヘキモノトス

第三章　公租及ヒ諸稅徵集規則違反ニ關スル手續

第四百十九條　公租及ヒ諸稅徵集規則違反ニ付キ行政官廳ハ其ノ處刑裁決ヲ以テ罰金並ニ沒收ニ限リ之ヲ

定ムルコトヲ得

處刑裁定ニハ刑ヲ定ムル外罰セラレタル行爲適用シタル刑法法條及ヒ證據方法ヲ明示シ又被疑者カ法律上許サレタル抗告ヲ上級官廳ニ對シ爲ササルトキニ限リ其ノ裁定通告後一週間内ニ裁定ヲ爲シタル行政官廳又ハ其ノ通告ヲ爲シタル行政官廳ニ裁判所裁判ヲ求ムルノ申立ヲ爲シ得ル旨ノ告知ヲ掲クヘシ

處刑裁定ハ時效ノ中斷ニ付テハ判事ノ處分ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス

第四百二十條　裁判所裁判ノ申立アリタルトキ行政官廳ハ處刑裁定ヲ取消ササル場合ニ限リ書類ヲ檢事局ニ送附シ檢事局ハ之ヲ裁判所ニ提出スヘキモノトス

第四百二十一條　原狀回復ニ付テハ第四百十五條ノ規定ヲ準用ス

第四百二十二條　期間内ニ裁判所裁判ノ申立アリタルトキ管轄裁判所ノ公判ハ起訴狀ノ提出ニヨラス又ハ公判手續開始ニ付テノ裁判ヲ要セスシテ之ヲ爲スヘキモノトス

檢事局ハ裁判所ニ對シ書類ノ提出ニ當ツテ裁判所構成法第二十五條第一項第二號cニ掲クル申立ヲ爲スコトヲ得行政官廳ノ請求アルトキハ之ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

公判開始ニ至ル迄ハ申立ヲ取下ルコトヲ得

第四百二十三條　執行力アル處刑裁定ヲ以テ定メタル罰金刑ヲ被告ヨリ徵集スル能ハサルカ爲メ之ヲ自由刑ニ換刑スルヲ要スルトキハ處刑裁定ニ付裁判上ノ取調ヲ爲サスシテ檢事局及ヒ被疑者ノ意見ヲ聽キ裁

判所裁判ヲ以テ換刑ヲ言渡スヘキモノトス

換刑ニ付テハ區裁判所判事之ヲ裁判ス

其ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス

第四百二十四條　行政官廳ニ於テ處刑裁定ヲ言渡サス檢事局ニ於テ其ノ受ケタル訴追ノ申立ヲ拒否スルトキハ行政官廳自ラ公訴ヲ提起スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ行政部ノ官吏又ハ辯護士ヲ其ノ代理人ニ選任シ且ツ公訴狀ニ其ノ氏名ヲ記載スヘシ

第四百二十五條　檢事局ハ裁判手續中何時タリトモ之ニ干與スルコトヲ得

公判ニハ檢事局在席スヘキモノトス又檢事局ハ裁判所ノ決定スル喚出ヲ爲スヘシ

裁判手續ノ中間ニ於テ爲ス裁判ハ總ヘテ之ヲ檢事局ニ告知スヘキモノトス

第四百二十六條　行政官廳ノ提起シタル公訴ニ付テノ裁判手續ハ被害公訴ニ村キ定メタル規定ニ從フヘキモノトス

第四百二十七條　被疑者カ處刑裁定ニ對シテ裁判上ノ審問ヲ申立テタルトキ又ハ檢事局カ公訴ヲ提起シタルトキハ行政官廳ハ其訴追ニ參加スルコトヲ得此場合ニ於テハ自ラ提起シタル訴訟ニ於ケルト同シク代理人ヲ選任スヘキモノトス

此ノ場合ニ於テハ被害者カ副訴人トシテ參加スルニ付定メラレタル規定ヲ適用スルモノトス

第四百二十八條　行政官廳公訴ヲ提起シ又ハ訴追ニ參加シタルトキハ判決及ヒ其他ノ裁判ハ言渡シノトキ行政官廳ノ代理人在席シタルトキト雖モ之ヲ行政官廳ニ送達スヘキモノトス

第四百二十九條　上訴提起ノ期間ハ行政官廳ニ對シ送達ヲ以テ始メテ始マルモノトス

行政官廳ハ上告申立ヲ提出シ及ヒ其答辯ヲ爲ス爲メ一月ノ期間ヲ置クモノトス

第四章　沒收及ヒ財產差押ニ關スル裁判手續

第四百三十條　刑法第四十二條又ハ其他法律上ノ規定ニ依リ物件ノ沒收、滅失又ハ廢物トナスノ言渡ヲ獨立シテ爲スコトヲ得ル場合ニ於テ其ノ申立ハ本案ノ判決ト連合シテ判決ヲ爲サザルトキニ限リ檢事局又ハ被害公訴人ハ一定人ノ訴追ノ場合ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ爲スモノトス

陪審裁判所ニ對スル代リニハ參審裁判所ニ對シ其ノ申立ヲ爲スモノトス

第四百三十一條　審理及ヒ裁判ヲ爲ス期日ニ付キテハ公判ニ關スル規定ヲ準用ス

沒收、滅失又ハ廢物トスル物件ニ付キ法律上請求權ヲ有スル者ハ其ノ裁判期日ニ之ヲ喚出スヘキモノトス但シ其喚出ヲ爲シ得ル場合ニ限ル

其ノ請求權者ハ被告ノ權ニ屬スル總テノ權ヲ執行シ亦書面上ノ委任ヲ有スル辯護人ヲシテ之ヲ代理セシムルコトヲ得此等ノ者闕席スルモ裁判手續及ヒ判決ヲ爲スコトヲ停止セス

第四百三十二條　判決ニ對スル上訴ヲ爲スノ權ハ檢事局被害公訴人及ヒ第四百三十一條記載ノ者ニ屬スルモノトス

第四百三十三條　刑法第九十三條ニ記載シタル被訴追者ノ財產差押ニ付キ第二百九十一條乃至第二百九十三條ノ規定ヲ準用スルモノトス

第五章　軍事犯罪、現役軍人ニ對スル刑事事件並ニ軍人刑事事件ニ關スル特別裁判手續規定

第四百三十四條　軍事裁判權ハ戰時ニ於ケル刑事裁判手續及現役ニ服スル軍艦ニ乘組メル國海軍現役軍人ニ對シテノミ存スルモノトス

軍事裁判權ナキ場合ニハ軍事犯罪並ニ現役軍人ニ對スル刑事事件並ニ軍人刑事事件ニ付テハ次ノ特別規定ニ從フモノトス

第一節　軍事犯罪ニ關スル規定

第四百三十五條軍刑法施行法第三條ニ從ヒ軍事犯罪ヲ懲戒處分ニ付スヘキヤ否ニ付テノ裁判ハ軍事懲戒官廳ノ長之ヲ爲ス但シ被害者カ軍屬又ハ現役軍人ニ非サル者ナルトキハ檢事局之ヲ爲スモノトス檢事局ノ處分ニ依リ犯罪ヲ懲戒處罰ニ移付シタルトキ被害者ハ其ノ處分ニ付テノ通知書ノ送達ノ後一週間以內ニ地方裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得

告發又ハ告訴ヲ受ケタル官廳ハ直チニ軍事懲戒官廳ノ長ニ通知スヘシ、公判手續ノ開始アリタルトキハ犯罪ニ付キ裁判所ノ判決ヲ爲スヘキモノトス軍事懲戒官廳ノ長ハ常ニ裁判所ノ判決ヲ求ムルノ權利ヲ有ス

第四百三十六條　軍事輕罪ニ對シテハ公訴ノ提起ヲ爲サザルノ權又ハ爲シタル裁判手續ヲ停止スルノ權ニ關スル第百五十三條第二項第三項ヲ適用セサルモノトス

第四百三十七條　逃走シタルニ因リ公訴提起ヲ受ケタル不在者ニ對シテハ裁判所ノ決定ヲ以テ逃走ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

其ノ決定ノ告知及ヒ取消ヲ爲スニ付テハ第二百九十一條第二百九十三條ニ從フモノトス

第二節　現役軍人ニ對スル刑事事件並ニ軍人刑事事件ニ關スル規定

第四百三十八條　陸軍現役軍人ニ對スル處罰手續ニ付テハ第四百三十九條乃至第四百四十一條ノ規定ニ從フモノトス

第四百三十九條　裁判籍ハ被疑者ノ所屬スル陸軍兵團ノ衞戍地ヲ管轄スル裁判所ニ亦屬スルモノトス

第四百四十條　逮捕ニ付テハ逮捕セラルル者ノ本屬監督官廳ノ長ニ遲滯ナク通知スヘキモノトス

第四百四十一條　訴追ノ開始公判手續開始及ヒ公判期日ノ指定ニ付テハ被疑者ノ本屬司令官廳ニ通知スヘキモノトス訴追開始ノ通知ノ到達シタル後ハ訴追官廳ノ承諾アルニ非レハ被疑者ヲ訴追官廳ノ管轄區域外ニ轉所スルコトヲ得サルモノトス

此ノ外被疑者ノ本屬司令官廳ニ對シ訴追ノ拒絕又ハ裁判手續停止ニ關スル檢事局ノ處分ニ付テハ通知書ニ理由書ヲ添ヘテ送達スヘキモノトス送達ハ記錄ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ得

第二項ノ場合ニ於テ第百七十二條ニ依ル被害者ノ權ハ本屬司令官廳ノ司令官ニ亦屬ス裁判所裁判ノ申立書ニハ辯護士ニ代リ陸軍（又ハ海軍）檢事之ニ署名スルコトヲ得ルモノトス第百七十六條第百七十七條ハ司令官ノ爲ス申立ニハ適用ナシ

司令官廳ノ定義ニ付テハ國軍事大臣之ヲ定ムルモノトス

第四百四十二條　軍人刑事事件ニ付テハ第四百四十三條乃至第四百四十八條ノ規定ニ從フモノトス

軍人刑事事件トハ國軍人ニヨリ現役中又ハ現役陸海軍隊ニ服屬シタリシ間ニ於テ爲サレタル犯罪行爲ニ關スル刑事裁判手續ヲ謂フモノトス

第四百四十三條　軍上官ハ警察並ニ保安官吏ト等シク檢事局ノ補助機關トシテ其ノ命ヲ行フノ權利ト義務

アルモノトス殊ニ檢事局豫審判事及ヒ裁判所ノ囑託事項ヲ果スノ義務アルモノトス

延期ヲ許サヽル場合ニ限リ審問處分ヲ爲スコトヲ得

第四百四十四條　告發及告訴ハ被疑者ノ本屬懲戒官廳ノ長ニ亦提出スルコトヲ得口頭ノ告發及ヒ告訴ハ調書ニ之ヲ記載スヘキモノトス

懲戒官廳ノ長ハ告發及ヒ告訴ニ付キ檢事局ニ對シ速ニ通知スルコトヲ要シ、又ハ急速ニ判事ノ審問ヲ必要トスルトキハ區裁判所判事ニ對シ其ノ通知ヲ爲スヘシ罰スヘキ行爲ノ嫌疑アルトキ亦同シ軍上官カ犯罪行爲ヲ懲戒處分ニ付スルノ權アルトキハ通知ヲ爲スノ義務ヲ免カルルモノトス

第四百四十五條　未決勾留命令ハ急速ヲ要スル嫌疑事實ノ存スル場合軍事懲戒ヲ行フ爲メ必要トスルトキ亦之ヲ許スモノトス

前項ノ場合裁判所ハ一月ヲ經過スル毎ニ拘留命令ヲ繼續スヘキヤ否ヲ取調フヘキモノトス未決勾留期間ハ全部之ヲ本刑ニ加算スヘシ

第四百四十六條　將校及ヒ代表者トシテ選拔セラレタル兵卒ハ被疑者ノ同意ヲ經又ハ其申立ニ依リ辯護人ニ選任セラルルコトヲ得

陸軍（又ハ海軍）檢事ノ職ニ從事シタル書記ハ第百四十四條第二項ニ揭ケタル司法官吏ト同一ノ權アルモノトス

第四百四十七條　上訴ノ提起及ヒ辯明ニ關スル陳述原狀回復ノ請求、裁判手續再審ノ申立、處刑命令ニ對スル異議並ニ警察官署ノ爲ス處刑處分ニ對スル裁判所裁判ノ申立ハ被疑者又ハ有罪判決ヲ言渡サレタル者之ヲ懲戒權ヲ有スル直近本屬長官陸軍（又ハ海軍）檢事又ハ其ノ職務ニ從事スル書記ノ調書ニ作成セシメテ之ヲ爲スコトヲ得又軍事拘禁ニ處セラレタル者ナルトキハ營倉ノ監督ヲ依托セラレタル將校ノ調書ニ作成セシメテ之ヲ爲スコトヲ得上告ノ申立及ヒ上告理由ハ第三百四十五條ニ揭クル法式ノ外陸軍（又ハ海軍）檢事又ハ其ノ職ニ從事スル書記ノ調書ニ作成セシメテ之ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ期間ノ遵守ハ期間內ニ調書ニ作成セシムルヲ以テ足ルモノトス

第四百四十八條　一般軍事服務規定ヲ適用セス又ハ不正ニ適用シタルヲ以テ上告理由トナスコトヲ得

第七編　刑罰執行及裁判手續費用

第一章　刑罰執行

第四百四十九條　處刑判決ハ其ノ確定前之ヲ執行スルヲ得サルモノトス

第四百五十條　執行ス可キ自由刑ニハ被告上訴ノ提起ヲ拋棄シ又ハ提起シタル上訴ヲ取下ケ又ハ申立ヲ爲

サスシテ其ノ提起期間ヲ經過シタル後受ケタル未決勾留ノ全部ヲ算入ス可キモノトス

第四百五十一條　刑ノ執行ハ裁判所書記ノ作成シタル執行ス可キ旨ノ記載アル認證アル判決書ノ謄本ニ基キ檢事局之ヲ爲スモノトス

區裁判所檢事ハ聯邦司法省ノ之ニ對スル委託アリタルトキニ限リ刑ノ執行ヲ爲スモノトス

區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ聯邦司法省其ノ命令ヲ以テ刑ノ執行ヲ區裁判所判事ニ委託スルコトヲ得

第四百五十二條　第一審トシテノ大審院ノ判決シタル事件ニ付テハ特赦權ハ國ニ屬スルモノトス

第四百五十三條　死刑判決ハ其ノ執行ニ付裁可ヲ要セス但シ執行ハ特赦權ノ行使ヲ爲ス地位ニ在ルモノ特赦權ヲ行ハントノ意思ナキコトヲ決シタルトキ始メテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百五十四條　死刑判決ノ執行ハ防圍アル場所ニ於テ之ヲ爲スモノトス

姙婦又ハ精神病者ニ對シテハ死刑判決ヲ執行スルコトヲ許サス

其ノ執行ノ際ニハ第一審裁判所構成員二名檢事一名裁判所書記一名監獄官吏一名立會フ可キモノトス斬首ヲ行フ地ノ市町村長ニ對シ市町村議員又ハ其ノ他名望アル住民ヨリ十二名ヲ斬首ニ立會フ爲メ派遣ス可キコトヲ督促ス可キモノトス

其ノ他有罪判決ヲ受ケタル者ノ宗派ノ僧侶一名及ヒ辯護人及ヒ執行指揮官ノ裁量ニ依リ其ノ他ノ者ニ入場ヲ許ス可キモノトス

執行ノ始末ニ付テハ調書ヲ作成シ檢事及ヒ裁判所書記之ニ署名スルコトヲ要ス

斬首セラレタル者ノ死體ハ其ノ親族ノ請求ニ依リ禮式ヲ用ヒス單ニ埋葬スル爲之ヲ下渡ス可キモノトス

第四百五十五條　自由刑ノ執行ハ有罪判決ヲ受ケタルモノ精神病ニ罹リタルトキハ之ヲ延期スルモノトス

刑ノ言渡ヲ受ケタルモノ他ノ疾病ニ罹リタルカ爲メ刑ノ執行ニ依リ生命ニ危難ヲ蒙ル虞アルトキ亦同シ

刑ノ言渡ヲ受ケタル者監獄ノ設備ニ依リ即時執行ニ堪エサル身體上ノ狀況ヲ有スルトキモ亦刑ノ執行ヲ延期スルコトヲ得

第四百五十六條　刑ヲ即時執行スルトキハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ其ノ家族ニ處刑ノ目的ヲ超エタル著シキ損害ヲ生スルトキニ限リ本人ノ申立ニ依リ之ヲ延期スルコトヲ得ルモノトス

刑ノ執行延期ハ四月ノ期間ヲ超ユルコトヲ許サス

刑ノ執行延期ニハ保證又ハ其ノ他ノ條件ヲ付シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第四百五十七條　檢事局ハ有罪判決ヲ受ケタル者就刑ノ呼出ヲ受ケテ出頭セス又ハ逃走ノ嫌疑アルトキハ自由刑執行ノ爲勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スルノ權アルモノトス

檢事局ハ有罪判決ノ言渡ヲ受ケタル者逃走シ又ハ隱匿スルトキ亦前項ト同一ノ目的ノ爲逮捕狀ヲ發スル

コトヲ得

此ノ權ハ第四百五十一條第三項ノ場合ニ於テハ區裁判所判事ニモ亦存ス

第四百五十八條　處刑判決ノ解釋又ハ言渡タル刑ノ計算ニ付キ疑ノ存スルトキ又ハ刑ノ執行許否ニ對シ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ノ裁判ヲ受ク可キモノトス

第四百五十五條ニ從ヒ刑ノ執行ノ延期申立ノ却下ニ對シ異議ノ申立アリタルトキ亦同シ

執行ノ繼續ハ前二項ニ依リ停止セラレサルモノトス但シ裁判所ハ此場合執行ノ延期又ハ停止ヲ命スルコトヲ得

第四百六十條　相異ナレル二個以上ノ確定判決ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケ而シテ此場合併合罪認定ニ關スル規定（刑法第七十九條）ヲ適用セサルトキハ言渡サレタル刑ハ裁判所ノ追加裁判ニ依リ併合罪ニ改ム可キモノトス

第四百六十一條　有罪判決ヲ受ケタル者刑罰執行開始後疾病ニ依リ監獄ノ外ノ病院ニ入レラレタル場合ニ於テ病院滯在ノ期間ハ有罪判決ヲ受ケタル者カ刑ノ執行ヲ妨クルノ意圖ヲ以テ疾病ヲ惹起セシメタルニ非サルトキハ之ヲ刑期ニ算入ス可キモノトス

檢事局ハ前項末段ノ疾病ヲ惹起シタル場合ニ於テハ裁判所ノ裁判ヲ求ム可キモノトス

第四百六十二條　刑ノ執行ノ爲必要ナル裁判（第四百五十八條乃至第四百六十一條）ハ口頭辯論ヲ經スシ

テ第一審裁判所之ヲ言渡スキモノトス

裁判前檢事局及ヒ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ申立ヲ爲シ且ツ辯明ヲ爲スノ機會ヲ與フ可シ

併合罪ノ言渡ヲ爲ス可キ場合ニ於テ（第四百六十條）裁判ヲ以テ變更ス可キ數個ノ判決ヲ數個ノ裁判所ニ於テ言渡サレタルトキハ最モ重キ種類ノ刑ヲ言渡シタル裁判所又ハ同種類ノ刑ナルトキハ最高ノ刑ヲ言渡シタル裁判所又ハ此場合數個ノ裁判所其ノ權限ヲ有スルトキハ最後ノ判決ヲ爲シタル裁判所カ裁判ヲ爲スモノトス以上ノ場合ニ於テ標準トナル判決ヲ上級裁判所ニ於テ言渡シタルトキハ第一審裁判所併合刑ノ裁判ヲ爲シ及ヒ第一審トシテノ大審院又ハ高等地方裁判所ハ數個ノ處刑判決ノ一ヲ言渡シタルトキハ大審院又ハ高等地方裁判所併合刑ノ裁判ヲ爲ス

此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ許スモノトス但シ大審院又ハ高等地方裁判所ノ言渡シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百六十三條　財産刑又ハ償金ニ付言渡シタル裁判ノ執行ハ民事裁判所ノ判決執行ニ付テノ規定ニ從ツテ之ヲ爲スモノトス

第二章　裁判手續費用

第四百六十四條　判決、刑罰命令及ヒ審問廢止ノ裁判ニハ裁判手續費用ヲ負擔ス可キモノヲ確定ス可キモノトス

費用ノ額及ヒ當事者カ他ノ當事者ニ補償ス可キ立替金ノ要否ハ當事者ノ申立ニ基キ裁判所書記之ヲ確定ス裁判手續及ヒ裁判執行ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スルモノトス

第四百六十五條　公訴準備手續及ヒ刑ノ執行ニ依リ生シタルモノヲ包含シタル費用ハ有罪判決ノ言渡ヲ受ケタルトキ被告之ヲ負擔ス可キモノトス

判決ノ確定前有罪判決ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ其ノ遺產ハ訴訟費用ヲ負擔スルコトナキモノトス

第四百六十六條　被告數個ノ犯罪行爲ヲ包含スル豫審ニ於テ其ノ一部ノ事件ニ付テノミ有罪判決ヲ受ケタル場合ニ於テ自餘ノ刑罰事件ノ審理ニ依リ特別ノ費用ヲ生セサリシトキハ其ノ費用ノ負擔ヲ免ル可キモノトス

同一行爲ニ付キ有罪ノ言渡ヲ受ケタル共同被告ハ立替金ニ付キ連帶債務者タル責ヲ負フモノトス刑ノ執行又ハ未決勾留ニ依ッテ生シタル費用ハ此限ニ非ラス

第四百六十七條　無罪ノ言渡ヲ受ケ又ハ訴追ヲ免セラレタル被訴追者ハ其ノ責ニ歸ス可キ懈怠ニ依リ生シタル費用ノミヲ負擔ス可キモノトス

被訴追者ニ生シタル必要ナル立替金ハ國庫ニ負擔セシムルコトヲ得

第四百六十八條　相互名譽毀損又ハ相互身體傷害ニ於テ其ノ一方又ハ相方無罪ノ言渡ヲ受クルモ其ノ一方又ハ相手方ニ費用ヲ負擔セシムルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第四百六十九條　信實ナラサルコトヲ知リツツ又ハ重大ナル過失ニ因リ爲シタル告發ニ依リ裁判外ノ訴訟手續ヲ爲スニ至リタルトキハ裁判所ハ告發者ヲ訊問シタル後之ニ國庫及ヒ被疑者ニ生シタル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

裁判所カ未タ事件ヲ受理セサルトキハ其ノ事件ノ公判ニ付キ管轄權アル裁判所ハ檢事局ノ申立ニ基キ前項ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

此ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ノ申立ヲ許スモノトス

第四百七十條　告訴アルニ非ラサレハ爲スコトヲ得サル裁判手續其ノ告訴ノ取下ニ依リ廢止セラレタルトキハ告訴人其ノ費用ヲ負擔ス可キモノトス

第四百七十一條　提起セラレタル被害公訴ニ依ル裁判手續ニ於テ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ハ被害公訴人ニ生シタル必要ナル立替金ヲ辨償ス可キモノトス

裁判所ハ被害公訴人ノ申立其ノ一部ノミカ認メラレタルトキ裁判手續ニ於テ生シタル立替金及ヒ被害公訴人及ヒ被疑者ニ生シタル必要立替金ハ相當ノ割合ヲ以テ之ヲ分擔セシムルコトヲ得

被疑者免訴セラレ又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケ又ハ訴訟手續廢止セラレタルトキハ被害公訴人ハ裁判手續費用竝ニ被疑者ニ生シタル必要立替金ヲ負擔スルモノトス

數名ノ被害公訴人ハ連帶義務者タルノ責ヲ負フモノトス數人ノ被疑者被害公訴人ニ生シタル必要立替金ヲ負擔スルトキ亦同シ

本章ノ規定ニ依ル補償セラル可キ立替金ハ必要ナル旅行又ハ期日ノ必要ナル遵守ニ依リ生シタル時間空費ノ補償ヲモ包含ス證人ニ對スル補償ノ規定ヲ準用ス補償義務ヲ有スル當事者ノ相手方カ辯護士ヲ使用シタルトキハ辯護士ノ手數料及ヒ立替金ハ民事訴訟法第九十一條ノ規定ニ依リ敗訴ノ當事者勝訴ノ者ニ補償ヲ爲ス限度ニ於テノミ之ヲ補償スルモノトス

第四百七十二條　第百七十五條ノ場合ニ於テ被訴追者免訴セラレ又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケ又ハ裁判手續廢止セラレタルトキハ告訴人ニ對シ第四百七十一條第二項乃至第五項ノ規定ヲ準用ス但裁判所ハ事情ニ因リ告訴人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ免スルコトヲ得ルモノトス

告訴人カ副訴人トシテ出廷スルノ權ナカリシトキニ限リ費用ニ關スル裁判前之ヲ訊問スヘシ

第四百七十三條　取下ケ又ハ却下セラレタル上訴ノ費用ハ上訴申立人ノ負擔トス檢事局上訴ヲ提起シタルトキハ被疑者ニ生シタル必要ノ立替金ハ國庫ニ負擔セシムルコトヲ得上訴其ノ一部效アリタルトキハ手數料ヲ減額シ及ヒ生シタル立替金ヲ相當ニ分擔セシムルコトヲ得

確定判決ヲ以テ終決シタル裁判手續ノ再審ノ申立ニ依ツテ生シタル費用ニ付キ亦同シ

現狀回復ニ依リ生シタル費用ハ其ノ申立人之ヲ負擔ス但相手方ノ理由ナキ異議ニヨリ生シタル費用ハコノ限ニアラス

第四百七十四條　第一審トシテノ大審院ノ管轄ニ屬スル事件ニ在リテ國庫ノ負擔スヘキ費用ハ獨逸國國庫之ヲ負擔ス

三　參審員、陪審員及ヒ代議員ニ對スル損害塡補ニ關スル律令

四　財產刑及ヒ償金ニ關スル律令

參審員、陪審員及ヒ代議員ニ對スル損害塡補ニ關スル律令

（千九百二十四年三月十八日、裁判所構成法第五十五條第二項ニ基キ國參議院ノ協贊ヲ得テ發布ス、國法律公報千九百二十四年一卷二百八十二頁）

第一條　參審員、陪審員及ヒ參審員、陪審員ノ選定ノ爲メ召集スル委員會ノ代議員ハ服務ニ依リ生シタル得ヘカリシ利益損失ノ塡補トシテ服務ニ費シタル勞務期間ノ毎一時間毎ニ付キ〇・〇五乃至〇・七五金貨まるくヲ支給セラル塡補額ハ個々ノ場合ニ付キ常規ノ職業ヲ斟酌シテ之ヲ定ム可キモノトス塡補ス可キ時間ハ一日ニ付キ十時間ヲ超ユ可カラス

第二條　參審員、陪審員及ヒ代議員ハ前條ノ外第一級國官吏ノ職務上ノ旅行ニ付キ定メタル規則（千九百二十一年十月十四日、國官吏ニ對スル旅費規則——國法律公報千三百四十五頁）ニ從ヒ

第一、各服務日ニ對スル日當

第二、服務ノ爲メ必要ナル夜間宿泊ニ對スル宿泊賃

ヲ給セラル通常ノ日當及ヒ宿泊料ヲ支給ス可キヤ又ハ高價ノ地ニ於テ支拂フ可キ金額ヲ支給ス可キヤヲ決定スルニハ參審員、陪審員及ヒ代議員ノ服務ス可キ地ヲ標準トナス

參審員、陪審員及ヒ代議員カ裁判所ノ所在地ニ職務ノ爲メ滯在シタル日ハ之ヲ第一項ノ意義ニ於ケル服務日ト看做ス

通常支給ス可キ日當及ヒ宿泊料ノ金額並ニ高額支給ノ金額ハ國官吏ノ職務上ノ旅行ノ場合ニ於ケル規定ニ從ヒ之ヲ定ム

第三條　參審員、陪審員及ヒ代議員ハ旅費トシテ左ノ如ク支給セラル

第一、鐵道、船舶又ハ其他公ノ通常交通機關ニヨリ旅行スルヲ得又ハ得ヘカリシ旅程ニハ必要ノ手荷物ノ運送及ヒ保險ノ費用ヲ包括シ輸送ノ爲支拂フ可キ輸送賃但其ノ輸送賃ハ鐵道、輕便鐵道ヲ用キタルトキハ三等乘車ヲ、船舶ヲ用ヒタルトキハ二等乘船賃ヲ超ユルコトヲ得ス

第二、第一ニ掲クル交通機關ニヨリ旅行シ得サル旅程ニハ往復ノ道程毎一きろめーとるニ付キ〇、〇五金貨まるく、參審員、陪審員又ハ代議員カ馬車ヲ用キルノ必要アルトキハ之ニ依リ生シタル費用ハ適當ノ範圍ニヨリ之ヲ支給ス自家用ノ馬車ヲ用キタルトキ亦同シ

旅費ハ參審員、陪審員及ヒ代議員ノ住居ト服務ス可キ場所トノ距離二きろめーとるヲ超ユルトキニ限リ之ヲ支給ス

第四條　旅費ハ參審員、陪審員又ハ代議員カ開廷中住所地ヘ往復スル旅行ニ對シテモ亦之ヲ支給ス但シ其ノ旅費ハ參審員、陪審員又ハ代議員カ所在地ニ滯在セル場合ニ支給セラル可キ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　參審員、陪審員及ヒ代議員ニ支給ス可キ塡補金ノ金額（第一條乃至第四條）ハ五金貨ぺにひニ切上ク可キモノトス

第六條　國通貨ヲ以テ塡補ヲ爲ストキハ金貨まるく額ハ國大藏大臣カ千九百二十三年十月十一日、十八日ノ評價令第二條第三項（國法律公報一卷九三九、九七九頁）ニ基キ制定シ且ツ公布シタル金換算規則ニ從ヒ之ヲ換算ス可キモノトス

公金庫ニ支拂ヲ爲ス可キトキニ限リ法律ニ定メタル支拂方法ニ依ラサルコトヲ得其ノ金換算規則ハ大藏大臣之ヲ定ム

換算ヲ爲スニハ裁判所金庫又ハ其他ノ支拂場所ニ支拂ノ委托書ノ到達シタル日ヲ以テ標準トス

第七條　本律令ハ千九百二十四年四月一日ニ施行ス同時ニ千九百二十二年七月二十九日ノ律令（國法律公報一卷六百七十三頁）千九百二十二年十一月十日ノ律令（國法律公報一卷八百四十七頁）千九百二十三年一月十三日ノ律令（國法律公報一卷五十七頁）千九百二十三年三月二十七日ノ律令（國法律公報一卷二百二十頁）千九百二十三年七月五日ノ律令（國法律公報一卷六百三十二頁）及ヒ千九百二十三年八月十八日ノ律令（國法律公報一卷八百十一頁）ノ編纂ニ係ル千九百二十二年七月八日ノ參審員、陪審員及

ヒ代議員ニ對スル損害塡補令（國法律公報一巻五百六十一頁）ハ其ノ效ヲ失フモノトス

財産刑及ヒ償金ニ關スル律令

（千九百二十四年二月六日——國法律公報一九二四、一、四四）

國政府ハ千九百二十三年十二月八日ノ委任法ニ基キ國參議院及ヒ國議會ノ意見ヲ聽キテ左ノ律令ヲ發布ス

千九百二十一年十二月二十一日ノ罰金刑ノ適用範圍ノ擴張及ヒ短期自由刑ノ制限ニ關スル法律千九百二十三年四月二十七日ノ罰金刑ニ關スル法律千九百二十三年十月十三日ノ財産刑及ヒ償金ニ關スル法律及ヒ千九百二十三年十一月二十三日ノ罰金刑及ヒ償金ニ關スル律令（國法律公報一九二一、S、一六〇四。一九二三、一S二五四、九四三、一一一七）ノ規定ニ代ヘ左ノ規定ヲ置クモノトス

第一條

刑法第一條第二項第三項、第二十七條乃至第二十九條第七十條第一項及ヒ第七十八條ヲ左ノ如ク規定ス

第一條第二項及ヒ第三項　五年以下ノ城寨禁錮、禁錮又ハ百五十金貨まるくヲ超ユル罰金又ハ金額ノ定メナキ罰金ヲ以テ罰ス可キ行爲ヲ輕罪トス

拘留又ハ百五十金貨まるく以下ノ罰金ヲ以テ罰ス可キ行爲ヲ違警罪トス

第二十七條　罰金ハ金貨まるくニ依リ之ヲ定ム可キモノトス

罰金ハ

第一、重罪及ヒ輕罪ニ對シテハ三金貨まるく以上一萬金貨まるく以下トス但シ現行法ニ一萬金貨まるくヲ超ユル金額又ハ最高額ノ制限ナキ罰金刑ノ定メアリ又ハ將來其ノ定メヲ爲ストキハ此ノ限ニアラス

第二、違警罪ニ對シテハ一金貨まるく以上百五十金貨まるく以下トス但シ現行法ニ一金貨まるくヲ超ユル最低額ノ定メアリ又ハ將來其ノ定メヲ爲ストキハ此ノ限ニアラス

最高額ニ關スル第二項ノ規定ハ罰金ヲ一定額ノ何倍額、等額、何分ノ一額ト定メタル場合ハ之ヲ適用セス罰金カ金貨まるくヲ以テ定メラレサルトキ罰金ヲ科スルニハ法定ノ金額ヲ金貨まるくニ換算ス可キモノトス

第二十七條a　射利心ニ據ル重罪又ハ輕罪ニ對シテハ罰金ヲ十萬金貨まるくニ上スコトヲ得前段ノ罰金ハ法律ニ罰金ヲ科スルノ定メナキトキト雖モ自由刑ニ附加シテ之ヲ言渡スコトヲ得

第二十七條b　罰金刑ヲ科スルコトヲ認メス又ハ自由刑ニ附加シテノミ之ヲ科スルコトヲ認メタル輕罪又ハ違警罪ニ對シ三月以下ノ自由刑ヲ科ス可キ場合罰金刑ヲ以テ處罰ノ目的ヲ達シ得ヘキトキハ自由刑ニ

代ヘテ罰金刑（第二十七條第二十七條a）ヲ言渡ス可キモノトス

軍刑法ノ規定ハ其ノ效ヲ失ハス

第二十七條c　罰金刑ノ量定ニハ犯人ノ經濟的境遇ヲ斟酌ス可シ

罰金ハ犯人カ犯行ニ依リ受ケタル報酬金及ヒ犯行ヨリ生シタル所得ヲ超ユ可シ

法定ノ最高額カ前項ノ金額ニ達セサルトキハ其ノ最高額ヲ超ユルヲ妨ケサルモノトス

第二十八條　判決ヲ受ケタル者カ其ノ經濟的境遇上即時ニ罰金ノ支拂ヲ爲スコトヲ得スト認ム可キトキハ裁判所ハ猶豫期間ヲ與ヘ又ハ一定ノ分割支拂ヲ許ス可キモノトス

裁判所ハ判決ヲ爲シタル後ト雖モ此ノ恩典ヲ與フルコトヲ得裁判所ハ其ノ決定ヲ後ニ至リテ變更スルコトヲ得判決ヲ受ケタル者カ分割支拂ヲ履行セス又ハ經濟的境遇カ全ク改善セラレタルトキハ裁判所ハ與ヘタル恩典ヲ取消スコトヲ得ルモノトス

第二項ニ依リ爲シタル裁判ニハ刑事訴訟法第四百九十二條（現行第四百六十二條）ヲ適用ス

第二十八條a　罰金ヲ支拂ハサルトキハ强制取立ヲ爲ス可キモノトス

强制取立ノ執行ハ判決ヲ受ケタル者ノ動産ヨリ取立ヲ爲シ得サルコト明カナルトキハ之ヲ中止スルコトヲ得

第二十八條b　執行官廳ハ判決ヲ受ケタル者ニ對シ支拂ヲ爲シ得サル罰金ヲ自由勞働ニ依リ償却スルコト

ヲ許スヲ得
其ノ細則ハ國參議院ノ同意ヲ得テ國政府之ヲ定ム其ノ定メナキ限リハ各聯邦ノ最高官廳之ヲ定ムルノ權アルモノトス

第二十九條　完納セサル罰金ハ重罪及ヒ輕罪ノ場合ハ禁錮ニ換ヘ罰金ト共ニ懲役刑ヲ宣告シタル場合ハ懲役ニ換ヘ違警罪ノ場合ハ拘留ニ換フルモノトス罰金ノミニ該リ又ハ罰金ヲ本刑トシ又ハ選擇的ニ罰金ト拘留ニ該ルトキハ罰金刑ハ輕罪ニ於テモ亦拘留ニ換フルコトヲ得

罰金ヲ換ヘタル刑ハ一日以上トシ及ヒ禁錮懲役ニ於テ一年以下トシ拘留ニ於テハ六週間以下トス前段ヨリ短期ノ自由刑ト選擇的ニ罰金ヲ定メタルトキハ換ヘタル刑ハ其ノ定メタル刑期ヲ超ユルコトヲ許サス換ヘタル刑ニハ一日未滿ハ算入セサルモノトス

前項ニ定メタル外ハ裁判所ハ自由ノ裁量ヲ以テ換刑ノ量定ヲ爲スモノトス

第二十七條bノ場合ニ在ツテハ科ス可キ自由刑ヲ以テ換刑トナス

判決ヲ受ケタル者ハ何時タリトモ未納ノ金額ヲ納付スルヲ以テ換刑ノ執行ヲ免カルルコトヲ得

判決ヲ受ケタル者其ノ責任ニヨラスシテ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ換刑ノ執行中止ヲ命スルコトヲ得刑事訴訟法第四百九十四條（現行第四百六十二條）ヲ適用ス

第七十條第一項　確定力アル宣告刑ノ執行ハ左ノ期間ノ經過ニ依リ時效完成ス

第一、死刑、無期懲役、無期城寨禁錮ニ處シタルトキハ三十年
第二、十年ヲ超ユル懲役、城寨禁錮ニ處シタルトキハ二十年
第三、十年以下ノ懲役、十年以下五年ヲ超ユル城寨禁錮、五年ヲ超ユル禁錮ニ處シタルトキハ十五年
第四、五年以下二年ヲ超ユル城寨禁錮、禁錮ニ處シタルトキハ十年
第五、二年以下ノ城寨禁錮又ハ百五十金貨まるくヲ超ユル罰金ニ處シタルトキハ五年
第六、拘留又ハ百五十金貨まるく以下ノ罰金ニ處シタルトキハ二年

第七十八條　二個以上ノ罰金ニ處スヘキトキハ各別ニ言渡スモノトス

未納ノ罰金ヲ自由刑ニ換ユルトキ亦同シ但シ其ノ刑期ヲ合算シタルモノハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス二個以上ノ拘留ノ刑ヲ合算シタルモノハ三週間ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條

重罪輕罪又ハ違警罪以外ニ對シ現行法ニ定メラレ又ハ將來定メラルル罰金殊ニ強制罰及ヒ秩序罰ハ金貨まるくヲ以テ確定ス可キモノトス

罰金ハ一金貨まるく以上一千金貨まるく以下トス但シ之ヲ超ユル金額又ハ最高額ノ制限ナキ罰金ノ定メアリ又ハ其ノ定メヲ爲ストキハ此ノ限ニアラス

最高額ニ關スル第二項ノ規定ハ罰金カ一定金額ノ何倍額、等額又ハ何分ノ一額ト定メラレタルトキハ適用

ナシ罰金カ金貨まるくヲ以テ定メラレサルトキ罰金刑ヲ確定スルニハ法定ノ金額ヲ金貨まるくニ換算ス可キモノトス

未納ノ罰金ヲ自由刑ニ換刑ス可キトキハ罰金ハ之ヲ六月以下ノ拘留ニノミ換刑スルコトヲ得但シ六月ヨリ短期ノ自由刑ト選擇的ニ罰金刑ヲ定メタルトキハ換ヘタル刑ハ其ノ自由刑ニ付キ定メタル刑期ヲ超ユルコトヲ許サス換ヘタル刑ニハ一日未滿ヲ算入セサルモノトス其ノ他ノ點ニ換刑ヲ確定ス可キ官廳ノ自由ノ裁量ニ依テ之ヲ爲ス

第三條

官廳、官吏、團體又ハ其ノ長カ罰金刑（刑法第二十七條、本律令第二條）ヲ豫定又ハ確定スルノ權アルトキハ罰金ノ額ハ

第一、刑法第二十七條ニ揭クル罰金刑ノ場合輕罪ニ對シテハ三金貨まるく以上一萬金貨まるく以下違警罪ニ對シテハ一金貨まるく以上百五十金貨まるく以下

第二、本律令第二條ニ揭クルモノニ對シテハ一金貨まるく以上一千金貨まるく以下トス但シ前段ヨリ高キ金額又ハ金額ノ制限ナキ罰金刑ヲ豫定シ又ハ確定スルノ權アリ又ハ其ノ權ヲ將來與ヘラルルトキハ此ノ限ニ非ラス

最高額ニ關スル第一項ノ規定ハ豫定シ又ハ確定セラル可キ刑カ一定額ノ何倍額、等額、何分ノ一額ト定メラレタルトキハ其適用ナシ第二條第三項第二段ヲ準用ス

第四條

被害者ニ支拂フ可キ償金ハ三金貨まるく以上一萬金貨まるく以下トス

第五條

金貨まるくヲ以テ確定シタル財產刑及ヒ償金ノ額ハ支拂又ハ强制取立ノ日ノ爲メ定メタル換算條例ニ從ヒ國通貨ニ換算ス可キモノトス換算條例ハ國大藏大臣カ千九百二十三年十月十一日及ヒ十八日ノ價値決定令（國法律公報一卷九百三十九頁、九百七十九頁）第二條第三項ニ依リ之ヲ定メ及ヒ公告ス

公ノ金庫ニ納入ス可キトキニ限リ法律ニ定メタル通貨ニアラサルモノヲ以テモ亦支拂ヲ爲スコトヲ得其ノ換算條例ハ大藏大臣之ヲ定ム支拂又ハ强制取立ヲ爲ス日ノ爲メ定メタル換算條例ヲ標準ト爲ス

本律令ノ意義ニ於ケル財產刑ハ總テノ罰金刑（刑法第二十七條、本律令第二、三條）及ヒ犯罪ニ依リ沒收セラレ、處刑セラレ又ハ追徵セラルル金額ヲ謂フモノトス

第六條

財產刑及ヒ償金ニ在リテ支拂ノ日ト看做サルルモノ左ノ如シ

第一、郵便小切手又ハ郵便爲替ニ依ル支拂ニ於テハ支拂受領者ニ交付セラルル證書上ニ押捺セラレタル郵便局ノ日附印ノ日

第二、郵便ニヨル其ノ他ノ送達支拂ノ場合ハ發送局ノ日附印ニヨリ示サレタル納入又ハ拂込ノ日

第一項ニ掲クル外ノ場合ニ於テハ入金ノ日ヲ以テ支拂ノ日ト看做ス

第七條

千九百二十三年十二月八日前ニ國通貨ヲ以テ確定セラレ且ツ未タ支拂ハレサル財産刑（第五條第三項）及ヒ償金ハ執行官廳之ヲ金貨まるくニ換算ス

「第二項第三項第四項」換算法ニ關スル規定ハ之ヲ省略ス

第八條

第一條乃至第七條ハ總ユル國法及聯邦法ニ對シ其ノ效アルモノトス

聯邦法ニ依ル罰金、委任及ヒ償金ニ付テハ聯邦法ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第九條

裁判所構成法第二十七條第二號ヨリ「六百まるく以下」ノ語句ヲ削除ス

第十條乃至第十三條

諸法律ノ罰金額變更ニ付テノ規定――省略ス

第十四條

本律令ハ告知後一週間ヲ經テ之ヲ施行ス

「第二項第三項第四項、經過規定」――省略ス

獨逸國ニ於ケル裁判所ノ組織及ヒ刑事手續ニ關スル法令　終

號數	年月	司法資料表題
第一號	大正一〇、一一	定型アル犯罪ノ調査（賭博編）
第二號	〃 一〇、一二	第二回國際少年保護會議議事錄
第三號	〃 一一、一	國際刑事協會獨逸支部ニ於ケル保護視察制度創設ニ關スル會議議事錄
第四號	〃 一一、二	米國ノ家庭裁判所
第五號	〃 一一、三	獨逸ニ於ケル檢事局及司法警察
第六號	〃 一一、四	米國ニ於ケル少年裁判所ト社會
第七號	〃 一一、五	第二回國際少年保護會議提出報告書第一集
第八號	〃 一一、六	英蘭及うえーるすノ警察
第九號	〃 一一、七	復權ニ關スル佛國法令
第一〇號	〃 一一、八	獨國ニ於ケル調停手續ニ關スル規程佛國戰時家賃法 伊國小作契約法
第一一號	〃 一一、九	英國ノ判事及ますたー論

第一二號	大正一二、一〇	英佛ノ辯護士法制
第一三號	〃 一二、一一	獨逸ノ辯護士法制
第一四號	〃 一二、一二	獨逸ニ於ケル監獄作業ノ經營竝ニ管理ニ關スル調査報告
第一五號	〃 一三、一	辯護士倫理
第一六號	〃 一三、二	獨逸國調停法草案及同理由書
第一七號	〃 一三、三	英國監獄制度
第一八號	〃 一三、四	獨逸國少年福利法草案同理由書及確定法文
第一九號	〃 一三、四	獨逸國少年裁判所法草案及同理由書
第二〇號	〃 一三、五	市加古少年裁判所ノ研究
第二一號	〃 一三、五	勞働裁判法ニ關スル獨逸國裁判官會議議事錄及評論（附）統一的勞働法編纂委員會起草勞働裁判法私案
第二二號	〃 一三、六	獨逸國ニ於ケル暴利取締法及活動ノ實況
第二三號	〃 一三、六	戰前ニ於ケル獨逸國ノ社會的立法（附）丁抹ノ　會政策的立法概觀

第二四號	大正一三、七	獨逸國經營協議會法及關係法令集
第二五號	〃 一三、七	獨逸國ニ於ケル賃率契約、勞働者及使用人委員會竝ニ勞働爭議ノ調停ニ關スル法制（附）調停制度概觀
第二六號	〃 一三、八	獨逸國ニ於ケル住宅及移住制度（附）英國ニ於ケル農業小作紛議仲裁ノ實況
第二七號	〃 一三、八	短期自由刑論
第二八號	〃 一三、九	西班牙國假釋放ニ關スル法令集
第二九號	〃 一三、九	獨佛英ニ於ケル商工業者ニ關スル特別裁判法制
第三〇號	〃 一三、一〇	獨逸國勞働裁判所法草案及理由書
第三一號	〃 一三、一〇	獨逸國少年裁判所法
第三二號	〃 一三、一一	司法制度改良論
第三三號	〃 一三、一一	獨逸新經濟法
第三四號	〃 一三、一二	職業組合、仲裁及仲裁裁判竝ニ賃率契約ニ關スル立法例（佛、伊、白、蘭國之部）
第三五號	〃 一三、一二	職業組合、仲裁及仲裁裁判竝ニ賃率契約ニ關スル立法例（墺國及瑞西之部）

第三六號	大正一三、一	職業組合、仲裁及仲裁裁判竝ニ賃率契約ニ關スル立法例（丁抹、瑞典、諾威之部）
第三七號	〃 一三、一	英國ニ於ケル略式刑事手續及すこっとらんどニ於ケル刑事手續
第三八號	〃 一三、二	佛國借家借地法
第三九號	〃 一三、二	職業組合、仲裁及仲裁裁判竝ニ賃率契約ニ關スル立法例（英國、加奈陀之部）
第四〇號	〃 一三、三	佛國監獄制度及同職員令
第四一號	〃 一三、三	職業組合、仲裁及仲裁裁判竝ニ賃率契約ニ關スル立法例（南亞之部）
第四二號	〃 一三、四	職業組合、仲裁及仲裁裁判竝ニ賃率契約ニ關スル立法例（濠洲之部）
第四三號	〃 一三、四	職業組合、仲裁及仲裁裁判竝ニ賃率契約ニ關スル立法例（米國之部）
第四四號	〃 一三、五	英國法律生活概要及同國ノ刑事控訴制度
第四五號	〃 一三、五	英國裁判所構成論（一、英國裁判官ノ地位附司法行政機關）
第四六號	〃 一三、六	英國裁判所構成論（二、英國ニ於ケル起訴官廳及辯護士ノ地位）
第四七號	〃 一三、六	瑞西國辯護士法

第四八號	大正一三、七	露西亞事情
第四九號	〃 一三、七	米國ノ刑罰制度
第五〇號	〃 一三、八	獨逸國民事訴訟改正律令
第五一號	〃 一三、八	英國裁判所構成論（三、下級裁判所之部 其一、治安裁判所）
第五二號	〃 一三、九	英國裁判所構成論（四、下級裁判所ノ部 其二、州裁判所及檢屍官裁判所ノ組織）
第五三號	〃 一三、九	英國裁判所構成論（五、中央審トシテノ英國高等法院ノ組織及權限）
第五四號	〃 一三、一〇	佛國商事裁判制度

286
17

333M29